沖縄訪問記

色摩　操

株式会社アイデック
〒130-0026 東京都墨田区両国4-38-3

東京はまだ冬の寒さで厚いコートを着込んでいた2月の終わりに沖縄へ行ってきました。

那覇空港に降りたつと甘くやわらかな空気が体にまとわりつき早くも夏の気配が感じられます。

じつはこの南国の地で学術大会を開催しませんかという誘致があり，その可能性をさぐるために訪れたわけです。

せっかく沖縄に行くのなら，私の担当している製品“アタマジラミ用すき櫛”のマーケットをぜひ開拓したいと，こちらも滞在中のスケジュールに入れ準備をしました。

ここで少し沖縄のアタマジラミの特異な環境について解説を加えさせていただきます。

アタマジラミは戦後間もないころの過去の話だと思われている方も多くいらっしゃいますが，実はその発生件数は今も増加傾向にあります。

以前，私が室内環境学会の学術大会の中でアタマジラミの推定患者数が50万人/年間罹患者数と発表しましたが，ここにきて罹患者数はさらに増えており83万世帯100万人以上が感染をしているという報告があると保健所から聞いております。

現在，日本でアタマジラミ駆除用に認可されている薬剤はピレスロイド系殺虫剤のフェノトリンを有効成分とするシャンプーやパウダーのみです。

ところが近年，このピレスロイド系殺虫剤に抵抗性のあるアタマジラミが出現しており，国立感染症研究所で全国規模の調査を行っていました。その中で，沖縄における抵抗性シラミのコロニー率は推定96%前後という数値が示されており，これは日本本土における出現率とくらべ顕著に高いものです。

考察としては，沖縄本島は国内最大の米軍基地を擁し米軍軍属家族の人口比が大きいことと関連しているとされています。そのような状況にもかかわらず，沖縄本島では現在も薬局でピレスロイド系薬剤がアタマジラミ駆除用医薬品として販売されており，保護者の間では有効性や作用性の明らかでない未認可の薬剤用品を駆除に利用して対処しているケースが散見されていると報告されています。

それらを踏まえ，薬剤に頼らない駆除法を提唱している米国NPA（National Pediculosis Association）が開発した物理的にアタマジラミを梳き落とす櫛を使用し，安全にアタマジラミを駆除する方法を実際に知ってもらいたいという強い思いもあった沖縄訪問でした。

さて，話は元に戻り沖縄視察です。県内の学術大会開催候補地4か所，沖縄産業支援センター，沖縄県男女共同参画センター てぃるる，OIST（沖縄科学技術大学院大学），沖縄コンベンションセンターを駆け足で巡りました。

車窓から見る街の風景は異国の雰囲気が漂います。住宅など建物はコンクリートでできているものが多く，また伝統的な赤瓦の屋根にはいたるところでシーサーがにらみをきかせています。

視察した施設はそれぞれに特徴があり，とても魅力のある開催場所候補地でした。学会員さんたちのご都合などを考えると少し悩ましいところもありますが，まちがいなく気分は盛り上がります。

残念なことに沖縄にはまだ会員さんはいらっしゃいませんが，いつかこのような海の見える会場での学術大会開催の日に想いを馳せつつ帰路につきました。

私はかれこれずいぶんと長く事務局のお手伝いをさせていただいておりますが，事務局の仕事をしていて一番楽しいのはいろいろな先生方，会員の方との出会いです。たくさんの方にお世話になり，多くのことを学ばせていただき貴重な経験をさせていただいています。

事務局として，なかなか完璧に皆様のご要望・ご期待に応えることができないことにこの場をお借りしてお詫びと，このような経験の機会を与えていただいた感謝の気持ちをお伝えできればと思います。

これからも室内環境学会の発展に貢献できるよう，微力ですがお手伝いできればと思っております。